

## JTA2008年度入社式社長あいさつ

2008年4月1日  
第08001号

日本トランスオーシャン航空（JTA、本社 那覇市、社長 大森 徹）は本日、入社式を開催し、地上職21名、運航乗務員訓練生4名、客室乗務員訓練生12名の計37名が入社致しました。入社式での社長あいさつは以下の通りです。

\* \* \*

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

本日37名の新しい仲間をお迎えできることを大変うれしく思います。

皆さんをお迎えするにあたり、最初に我が社の創立の趣旨について申し上げます。

1967年に沖縄県が本土復帰する5年前ですが、島嶼県である沖縄県内の離島間輸送を担うために、当時の地元の方々を中心に色々考察された結果、地元財界と日本航空が共同出資し、地元沖縄に新会社を興し、それで沖縄県の発展に繋げていこうということで我が社が誕生しました。昨年7月創立40周年を迎えましたが、現在、県内5路線に加え、沖縄を拠点にした県外15路線を運航し、「県民の翼」であると共に「沖縄発日本の翼」として、地元沖縄県の発展に貢献するということを経営ビジョンにして取り組んでいる会社です。

さて、皆さんは本日から社会人としてのスタートを切るわけですが、このJTAという会社に入社されるにあたって、基本となることを申し上げたいと思います。

第一に「安全」がすべてに優先するということです。航空会社は安全なくしては存続しえません。基本に忠実に、愚直に、そして確実に仕事をこなしていくことで初めて安全が確保できます。また、昨日までの安全が明日の安全を保障するわけではありません。常に緊張感を持ち、一便一便を大事に運航していく、その結果として我が社は創立以来の人身死亡無事故記録を継続できているのです。これからも一便、一日、一年と、この記録を更新していくことが我々の大きな使命です。

そして航空会社はお客様に選んでいただければ存続しえません。常にお客様の視点に立ち、イエスの発想で真心をこめて「安全・安心・優しさ」の提供に努めていくことが重要です。

もう一つは、先ほど申し上げた我が社の創立の趣旨を忘れないことです。つまりこの会社は那覇に本拠を置く航空会社として地元のために生まれました。その後、路線構成、収入構

成、或いは資本構成等変遷を重ねてはきましたが、原点はやはり地元です。常に地元を意識しながら仕事を進めてください。沖縄県は観光立県を標榜し、2016年までに現在の600万人弱の入域観光客を1000万人にまで増やそうと計画しています。我々が県外からお客様をお運びすることの意味がよくお分かりいただけると思います。同時に安定した経営を継続することで地元資本にも配当し、しっかりと税金をおさめ、また本日のように地元の若者を継続的に採用していくことも重要です。

こうしたことを実践していく上での原動力とすべく、昨年創立40周年を機に企業理念を制定しました。「感謝・信頼・挑戦」という大変シンプルなものですが、航空会社を運営していく上でいずれも欠かせないところです。定期航空運送事業はもはやエアラインだけでは成り立たなくなっております。例えば那覇空港ではJALスカイ那覇、或いは沖縄エアポートサービスの仲間達が、石垣や宮古等先島の空港ではJTAサザンスカイサービスの仲間達が我々のフライトを支えてくれています。こうしたグループ各社の仲間たちに常に感謝の気持ちを忘れずに接すること、そして会社を超えた信頼感が不可欠です。更にJTA社内においても、運航・整備・客室・空港等色んなセクションが相互に感謝の気持ちをもち、夫々の職務をしっかりと果たしていく必要があります。こうして品質の高い商品を提供することで、お客様からの信頼、地元からの信頼を得ることができるのです。

加えて、世の中は目まぐるしく変化しています。我が社にとっては特にこれからの10年間は激動の時代であることが予測されます。今年のご承知のとおり原油高騰、競争の激化、そして需要の低迷という大きな嵐が3つ同時に押寄せています。そして2年後からは737-400型機の機材更新が始まります。更に羽田の新滑走路や新石垣空港、そして那覇空港の拡張までが現実味を帯びてきています。こうした変化に対応していくためには、過去の慣例にとらわれることなく、課題を克服し、ビジネスチャンスを適確に捉えていくことが必要です。まさに「挑戦」の連続となるでしょう。

皆さんはこれから夫々の部門でスタートし、専門職として或いはジェネラリストとして一人前になっていくわけですが、常にこの企業理念を念頭に置きながら仕事を進めて下さい。

最後にもう一つだけ申し上げたいことがあります。それはこの会社のいい意味での「距離感のなさ」です。私自身いつも感じているのは、社員が相互にその人となりを知りうる、知った上で仕事を進められる、というJTAの規模のメリットです。このメリットを利用すれば、情報を迅速に共有できます。そして「感謝」「信頼」の思いをお互いに通じ合うことができ、みんなが心をつなげて「挑戦」に向かえるはずです。

いよいよ皆さんは本日から社会人です。まずは健康に留意して、そして大いに自分自身を高めていってください。会社の仕事は勿論ですが、時には仕事を忘れて何か没頭できるものを見つけ、大いに見聞を広めてください。人間を大きくすることが必ずやいい仕事につながります。

新入社員の皆さん、次の50周年を素晴らしい形で迎えられるよう、共にごがんばりましょう。そして皆さん一人一人がこの会社を背負っていくんだという気概を持ち、失敗を恐れずあらゆることに積極的に挑戦していただきますようお願いして私の歓迎のご挨拶と致します。

以上